

平成30年産

ハツシモ岐阜S1

美味しい米作りは『土づくり』から。土づくり肥料を施用しましょう。

収量の目安		普通植480kg
m株数	15株	(30cm×22cm)
m穂数	315本	(21本×15株)
1穂着粒数	75粒	
登熟歩合	80%	
玄米千粒重	25.2g	

食味値の目標	
アミロース	18.5%以下
タンパク	7.5%以下
水分	14.5～15.0%
総合	80.0以上

ぎふクリーン農業		
30%減	成分数	12
	N成分	6
50%減	成分数	9
	N成分	4

作期	田植日
普通植	6月10日

成分数は化学合成農薬の有効成分数
N成分は無機窒素成分のkg/10a

岐阜県主要農作物奨励

生育過程	水管理											
	11～4月				5月		6月		7月			
作業名	◎土づくり				◎播種 ◎基肥		◎田植 ◎除草剤散布		◎中干し			
作業の目安	普通植				10日		10日		20日～25日			
使用肥料名 10a当たり												
N成分					2.4							
農薬名	いもち病・フタオビコヤガ予防の箱施薬剤 ツインターボフェルテラ箱粒剤 50g / 箱				ジャンボタニシ対策 スクミノン 1～4 kg/10 a				紋枯病の発生状況 モンカツ 3～4 kg/10 a			
成分数	3				1				1			
実施内容	※この欄には、作業名・使用肥料名・農薬名・使用量(10a当たり)を必ず、記入ください。											
作業名	ニュー味力アップ				ハツシモ化成		代かき		田植		アツパレZ	
作業月日	/				/		/		/		/	
使用量等	kg/10a				g/箱		kg/10a		/10a		kg/10a	

品質向上のための対策

対策1

土づくりとケイ酸の補給

～異常気象へも対応～

①土づくり資材の積極的な散布

- リン酸・カリについては、不足傾向です。毎年土づくり資材を投入しましょう。ニュー味力アップ80kg/10aの散布を行いましょう。

②有機物の働き込み

- 稲わらは収穫後早めに働き込みましょう。
- れんげなどの緑肥も土づくりに有効です。

③異常気象の対策も検討

- ケイ酸の補給は根を活性化させ、乳白粒の発生を軽減させる効果が期待できます。
- 特に「けい酸加里」は、ケイ酸とカリを効果的に施用出来ます。

④中間追肥に「マルチサポート」の施用

- 出穂の45日前を目安に施用します。
- ケイ酸の補給に加え、苦土施用により食味の向上が期待できます。



対策2

除草剤の適正使用

～推奨除草剤体系～

①田植えの準備

- 丁寧に代かきを行い、雑草の発生が多い圃場は2回の代かきを行いましょう。

②一発処理除草剤 (散布後は1週間水を止めましょう。)

- アツパレZ1*粒剤、アツパレZフロアブル、アツパレZジャンボ

③取りこぼした雑草対策

- 取りこぼした雑草の草種・葉齢を確認し、追加の防除を実施する。

★クリンチャー1キロ粒剤

ノビエ、キシウスズメノヒエ

★バサグラン粒剤

水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヘモモダカ、オモダカ



※使用量はすべて10aあたりの数値です。

早SL栽培暦

大垣区域 JAにしみの

期	田植日	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	栽培上の注意
早植	6月10日	8月30日	10月8日	85	21.6	倒伏を避けるため、下位節間を伸ばさないような肥培管理をし、多肥にしない。

岐阜県主要農作物奨励品種特性表より引用

幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期
カドミウム吸収抑制 出穂期前後3週間は水を切らさない				

- ・収穫7日前を目安に落水する。
- ・落水後も乾き過ぎる場合は走り水を流す。

8月										9月										10月									
◎ 穂肥										◎ 出穂										◎ 落水									
◎ 防除										◎ 防除										◎ 収穫									
◎ 稲わら鋤込み										◎ 稲わら鋤込み										◎ 稲わら鋤込み									
※出穂18日前 幼穂長約5mm																				※収穫後、早い時期 に作業をする									
12日										30日										1日									
20日										7日										8日									
NK404 14-0-14										本田防除剤																			
または 化成肥料14-5-14										20kg(1袋)																			
2.8										合計 N成分										5.2									
紋枯病の発生状況に応じて モンカット粒剤 3~4 kg/10a										いもち病・カメシ対策 フジワラップ粒剤 4kg/10a										合計成分 種子消毒 除草剤除く									
1										2										7									
その他防除 /										モンカット粒剤										化成肥料									
kg/10a										kg/10a										kg/10a									
/										/										/									
kg/10a										kg/10a										kg/10a									
/										/										/									
kg/10a										kg/10a										kg/10a									
/										/										/									
kg/10a										kg/10a										kg/10a									

薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当り 使用量	使用方法	本家の 使用回数
アッパレZ 1キロ粒剤	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、クログワイ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時 移植後3日~ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	1kg	田植同時散布機 で施用 湛水散布又は 無人ヘリコプター による散布	1回
アッパレZ フロアブル	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、クログワイ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日~ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	500ml	原液湛水散布	1回
アッパレZ ジャンボ	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、クログワイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日~ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	小包装 (バック) 10個 (400g)	水田に小包装 (バック)のまま 投げ入れる	1回
クリンチャー 1キロ粒剤	ノビエ キシュスズメノヒエ アゼガヤ	移植後7日~ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで 移植後25日~ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで	1kg 1.5kg	湛水散布又は 無人ヘリコプター による散布	2回 以内
バサグラン 粒剤	水田一年生雑草(イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、エノサヤヌカサ、シズイ	移植後15~55日 但し、収穫60日前まで	3~4kg	落水散布又は ごく浅く湛水 して散布	1回

※アッパレZ1キロ粒剤を田植同時処理で使用する場合は、田面が強く硬い砂質土や漏水(縦浸透)の大きな水田では、生育不良が生ずるおそれがあるので使用を避けて下さい。

対策3 ジャンボタニシ防除の徹底 ~食害防止には早めの対応~

①秋、冬の対策

- 来年の被害を抑えるため、ジャンボタニシの数を減らしましょう。
- ・水田の落水時期以降に捕獲した貝は粉砕し処分しましょう。
(捕獲する場合は必ずゴム手袋をしましょう。)
 - ・田面を乾かし、厳寒期に耕起することで、越冬中の貝を寒気にさらしたり、貝を破壊し殺しましょう。



②春、夏の対策

- 計画的にジャンボタニシを防除しましょう。
- ・水口、水尻にネットや金網を設置しましょう。
(網目は5mm以下が望ましい。)
 - ・移植後2~3週間、浅水管理を行いましょう。(水深4cm以下)
 - ・稲への食害は田植え直後から3週間以内に発生します。
この時期に貝を見つけたら捕殺しましょう。
 - ・貝を見つけ次第捕殺しましょう。
 - ・卵塊は産卵後早期に水中にかき落としましょう。

除草剤散布後の7日間止水管理を徹底しましょう。